

第3番霊場

般若寺

奈良の地に佇む般若寺は、飛鳥時代に高句麗から渡来した慧灌法師が「般若台」を始めたことが草創と伝わる古刹です。聖武天皇が平城京の鬼門守護を願い、塔の基壇に「大般若経」を納めて卒塔婆を建てたことが寺名の由来とされています。

平安時代には千人の学僧が集う学問寺として隆盛を極めました。治承4年(1180年)の平重衡による「南都焼討」で伽藍は灰燼に帰しました。

鎌倉時代に再建の機運が訪れ、真言律宗の宗祖「叡尊」と「良恵」によって廃墟の中から、十三重石宝塔をはじめ、七堂伽藍の再建が行なわれ復興されました。

宋出身の石工・伊行末によって建立されたのが、現在も境内の中心にそびえる国の重要文化財「十三重石宝塔」です。高さ14.2メートルを誇るこの塔は、日本を代表する重厚な美しさを持ちお参りする人々の心をとらえて離しません。塔身の東には薬師如来、西には阿弥陀如来、南には釈迦如来、北には弥勒菩薩の四仏が刻まれており、これらを拝めばご利益があると言われていました。

また、般若寺は古くから救済の場でもありました。叡尊上人は弟子の忍性、信空、良恵らと共に文殊信仰に基づき病者や貧者の救済に尽力しました。鎌倉時代に行われた「無遮(むしゃ)の大会法要」では数千人の病者や貧者を集め布施行と授戒を行い、我が国の福祉の先駆として歴史に名高い事績であり、その精神は、現在も付近に



十三重石宝塔(重文)東側に刻まれた薬師如来



44号



楼門(国宝)

残る「北山十八間戸」などの福祉活動の先駆的事績として歴史に刻まれています。

現在、般若寺は四季折々の彩りに包まれる「花のお寺」として親しまれています。4月の山吹や6月の紫陽花が境内を彩り、正岡子規もこの地で句を残しました。中でも秋に咲き誇るコスモスは圧巻で「コスモス寺」の異名で知られています。これは約50年前、荒廃した境内に咲く一輪のコスモスに心を打たれた前住職が、参拝者の心が和むようにと研究を重ねたことから始まりました。現在では約30種類・15万本のコスモスが咲き乱れ、古い堂宇と調和した「花浄土」のような光景が訪れる人々を温かく迎えています。

電子版瑠璃光では、「般若寺四季の花」の写真を特別掲載していますので、是非ご覧ください。過去発行された瑠璃光もご覧いただけます。



行事、花期特別拝観料金の詳細などは般若寺のホームページでご確認ください。



国書院 法性山へコスモスへ

般若寺

【文殊会式】

4月25日、知恵を司る「八字文殊菩薩(はちじもんじゅぼさつ)」を供養し、参拝者の学業成就や合格祈願、心身の健康を祈ります。現在は寺内のみで法要を厳修しております

【拝観時間のご案内】

通常拝観時間／9時～17時

(最終受付16時30分)

短縮拝観時間／9時～16時

(最終受付15時30分)

※短縮拝観期間は、1月・2月・3月・4月・7月・8月・12月となります

【拝観料金】

紫陽花(初夏)と秋桜(秋)の2期に花期特別拝観料金を設けています。

通常拝観料金／大人500円、

中学生200円、小学生100円

花期特別拝観料金／大人700円、

中学生300円、小学生200円

※花期特別拝観期間は、あじさい期(6月中旬ごろ)、コスモス期(9月下旬ごろから11月上旬ごろ)